



講師

木村利人 *Ribito kimura*

恵泉女学園大学学長

早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了、博士(人間科学)。ジョージタウンケネディ倫理研究所国際バイオエシックス研究部長、早稲田大学人間科学部教授を経て、2006年より現職。厚生科学審議会委員、医師国家試験委員、東京都病院倫理委員会委員長を歴任。著書に「バイオエシックスハンドブックー生命倫理を超えて」(法研)、「自分のいのちは自分で決める」(集英社)等がある。



ILC seminar

ILC セミナー

生と死 いのちの終わりを考える

国際比較の中から

日時 2011年11月18日

場所 霞が関東海大学校友会館 霞の間

講師 木村利人 恵泉女学園大学学長

箕岡真子 東京大学大学院客員研究員

マイケル・ガズマノ ヘイスティングスセンター研究員

ILC日本の調査で、我が国においては理想の看取りと、実際に行われている看取りとのギャップが非常に高い、との調査結果が示された。

看取りのあるべき姿とはどのようなものか。

終末期の緩和ケアはどのように行われているのか。

死を迎えつつある本人の意思を尊重し、やすらかな最期を迎えてもらうために

私たちがしなければならないこととは何か。

木村利人先生を座長とし、バイオエシックスに真正面から取り組む医師の箕岡真子先生と、ヘイスティングスセンター研究員で各国の医療格差比較を行っているマイケル・ガズマノ先生をスピーカーとして招き、セミナーを開催した。

1

(写真: 湊 雅博)



箕岡真子 Masako Minooka

東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野客員研究員・箕岡医院内科医師

浜松医科大学医学部卒業、早稲田大学大学院バイオエシックス専攻卒業。主な研究はバイオエシックス、介護と生命倫理、終末期医療の倫理。著書に『「私の四つのお願い」の書き方—医療のための事前指示書』（ワールドプランニング）、『認知症ケアの倫理』（ワールドプランニング）等がある。



マイケル・ガズマノ Michael K. Gusmano

ヘイスティングスセンター研究員

ニューヨーク医科大学医療政策・管理学准教授、コロンビア大学・エール大学非常勤講師。メリーランド大学政治学博士号取得。主な研究は、各国における健康と医療の格差調査、ガン患者ケアの倫理的側面と政策的側面など。ILCで2000年より行ってきた「World City Project」では共同ディレクターを務める。共著に『Healthy Voices/Unhealthy Silence: Advocating for Poor People's Health』（Georgetown University Press）等がある。

このセミナーは、長い間日本ではタブートピックとなっていた「いのちの終わり」の問題に、正面からぶつかるという点で非常に画期的だ。

今回はバイオエシックスの観点から終末期の問題点を取り上げるにふさわしい素晴らしいスピーカーを、日米両国からお二方招いている。

木村利人

